

廖承志訪日団一行は、一カ月余りの日本訪問を通じてさまざまな話題を投げかけ、多くの成果を手にして帰国した。歓迎パーティーやお別れパーティーに、何千人かの人びとが詰めかけて友好人士ぶりを競ったり、各地・各界の歓迎競争がこうも激烈であったりしたことは、訪日団自身も驚いたことであろう。

そもそも、今回の訪日団の目的が日中友好にあったのだから、こうした現象は当然であったにしても、同時に、今回の訪日団がきわめて多面

## ●外交時評

# 訪日団が残した小さなナゾ

中嶋嶺雄(東京外国語大学助教授)

的な政治目的を持っていたことも疑えない。

対ソ抗争、在日華僑への呼びかけ、政財界との積極的な連絡、新しい友人の拡大といった諸点については、すでに論じられもしたし、また連日の報道からも明白であった。しかし最も重要な点は、本格的な対日サーベイにあったといつてよく、第一に「ディスカパー・ジャパン」こそ、訪日団の真の大きな目的であったように思われる。そして第二には、そのようなリアルな日本像を団員に教化することにあつたと思われ、それは今回の訪日団の約三分の二のメンバ

ーが初来日であつたこととともに、今回のメンバーが今日の中国の政治にみられる複雑な動きと密着しており、一部の文革派に対しての再教育という意味も含まれていたように思う。

そうしたなかで、代表団をめぐるとあれほど多くの報道がありながら、ついに新聞が報じなかつた二つの意味深いナゾが残されている。

その一つは、一カ月余りも滞日し、東京であれほど広範な友好接触がくり返されたにもかかわらず、廖訪日団一行はついに美濃部都知事に



会わなかつたことである。「福田書簡」をたず

さえた過般の美濃部知事の訪中が記憶に新しいだけに、この事実は興味深いナゾであつた。先日の北朝鮮新聞代表団でさえ、東京に着くとすぐに都知事を表敬訪問しているのに、ついに廖訪日団はそれをしなかつたし、美濃部知事も訪日団に会おうとしなかつたようである。京都の堀川知事の場合はその理由が明白であろうが、美濃部知事の場合は必ずしも明白な理由が思い当たりにくいだけに、やはりナゾなのである。私は、あえてこのナゾをここで解こうとは思

わないが、もしもこのナゾを解明しようと思えば、さまざまな微妙な問題にたどりつくであろうことは疑いない。

第二のナゾは、廖訪日団が北海道から沖縄まで全国三十八都道府県を訪れ、なんと六百六十カ所を友好訪問しているのに、ついに広島に立ち寄らなかつたことである。かつて、あれほど原水禁運動に積極的であり、今回の訪日団のメンバーのなかにも、張香山氏をはじめ、原水禁大会に出席した人びとも加わっているのに、彼らについては広島へ足を踏み入れなかつた。もとより、この第二のナゾを解くのは比較的容易であり、広島へ行けば、当然原爆資料館や原爆記念碑を訪れねばならず、そのとき、依然として核開発をつづけている中国の立場を、どのように表明すべきかが問題になるはずであつて、こうした問題を避けたいという今日の中国の立場の反映であつたことは疑いない。近く、新しい核実験が中国で行なわれるかもしれない——と見るのは、いささかがちすぎであろうか。

ともかく、以上の二つのナゾは、小さいことのようにいて、かなり衝撃的な事実にもとづくものである。本当は、こうしたナゾにこそメスを加えてほしいのだが、ついに新聞はこの点を報じてくれなかつた。依然としてタブーの多い世の中だと思ふのだが、それとも友好ムードにひたりすぎていて、こうしたナゾにさえ気づかなかつたのであろうか。